楽しき散策 知る喜び

霧島シルバー観光ガイドしっちょいどん

「しっちょいどん」とは、鹿児島の方言で「物知りな人」という意味です。ふるさと霧島のすばらしさを、多くの人々に知っていただき、また、再発見していただくことを目的として、「霧島シルバー観光ガイドしっちょいどん」は設立されました。

また、西郷どんは何故「せごどん」かと言うと、鹿児島弁ではSAIGOのAI→Eへ短縮されSEGOとなったものです。また、「どん」は殿がなまってできた鹿児島弁の敬称です。

今回、西郷（せご）どんの愛した日当山温泉地区周辺の名所・旧跡の案内を整え、新たに西郷どん関連地コースを創設致しました。

人生経験豊かなガイドと共にコースを巡り、歴史を学びながら思い出作りをしてみませんか？

西郷どん湯

西郷どんが入浴中、日当山高江のつねバァさんが同時に入浴した。立派な肥えた体躯と断髪頭に「きれいな坊さんじゃ、寺をもっちょいやっとな」と尋ねたので、西郷どん、お困りになったが、「桜島を持っとるが」と愛きょうたっぷりにお答えになったそうである。

侏儒どん橋

侏儒どん橋（歩道橋）の中央には侏儒どんのモニュメントと頓知話「茶の実（ちゃのみ）」のプレートが設けられている。日当山城、笑隈城、姫木城、橋木城を一望できる。

西郷どん像

西郷どんは不思議に漁運の良いことで有名であった。網打ちにお供すれば、乗っておられるだけで漁に恵まれる。鯉もスズキも常には一尺位が大物であったが、二，三尺の大物が沢山獲れる、奇妙不思議なお方であった。

侏儒どん温泉(石祠)

日当山温泉はイザナギとイザナミの二神がヒルコノ命をこの地に送り療養させたといわれる。地面を掘り下げた地下に湯壺を設置していたが、古河八郎左衛門が水車で揚げ湯する方法を導入してから多くの湯治客を集めるようになった。

泉帯橋

国見岳（標高648m）南麓に発し、南流する天降川に架かる橋である。この橋からは晴天時には南方向に桜島、北方向に霧島の韓国岳、高千穂峯を臨むことができる。西郷どんの逸話プレートが設置してある。

イヌマキの木

龍宝伝右衛門宅の庭にあったイヌマキの木は西郷どんが日当山を訪れる度に馬をつないだ木とされる。宿代わりとしていた龍宝宅の庭には土俵もあった。相撲好きの西郷どんもそこで相撲を取ったのだろうか。

西郷どん関連地モデルコース
（大型バス発着可）

●西郷どん村→西郷どん湯→侏儒どん温泉(石祠)→侏儒どん橋→泉帯橋→蛭児神社→西郷どん像→西郷どん村(イヌマキの木・西郷どんの宿)
…約2.5km

●鹿児島神宮→石體神社→笑隈城跡→蛭児神社→西郷どん像→西郷どん湯→西郷どん村(イヌマキの木・西郷どんの宿)
…約3km

●湯本大権現→足湯→侏儒どん橋→侏儒どん温泉(石祠)→西郷どん湯→蛭児神社→西郷どん像→西郷どん村(イヌマキの木・西郷どんの宿)
…約2.5km

蛭児神社

日本の神様が子供を産むようになったのは、イザナギノ命とイザナミノ命からである。最初に生まれた蛭児は生まれた時から腰が立たず、親神は憐れみながら「天磐楠舟」に乗せ流した。たどり着いた奈毛木の杜で今も蛭児神社として、人々を守る神として崇められている。

西郷どんの宿

西郷どんは、龍宝伝右衛門宅の表座敷を借りて滞在し、壮士数人と猟犬数頭を従えて、山野で猪やウサギを追って狩りを楽しんでいた。龍宝宅は、西郷が投宿した西郷どんの宿として再建されている。

鹿児島神宮

鹿児島神宮は大隅・薩摩随一の大社で、別名大隅一之宮とも言う。
当神宮の御祭神は山幸彦と海幸彦の神話で知られるヒコホホデミノ命(山幸彦)で、山の幸や海の幸の恵み、五穀豊穣を始めとして、開運、厄除け、良縁、出産など、あらゆることにご利益があるとされる。

正興寺跡

正八幡宮(鹿児島神宮)でも神仏混交が行われ、社殿の奥には三体の仏像がご神体として祭られ、また、周辺三か所の正八幡三か寺(本地寺)に祭られた。即ち、正国寺(阿弥陀如来)、正高寺(観音)、正興寺(釈迦)がそれである。現在、正興寺跡は墓所となっている。

湯本大権現碑

鎌倉時代(1293年)、明源というお坊さんが石に「湯本大権現」の文字を刻み祀った。時は流れ、湯本大権現碑は地中に埋もれ人々の記憶からも忘れられていった。建立から270年あまり、夢のお告げで碑が埋もれていることを知った松慶和尚は、碑の発掘に挑み湯本大権現碑を再び陽の目にさらすことに成功し、そのいきさつを石碑の裏に彫り、再び碑を立て直したものである。

石體神社

ヒコホホデミノ命(山幸彦)と豊玉姫はこの地を住居としていた。豊玉姫が急に産気付いた為、命は急いで鵜の羽を集め産屋を作ろうとしたが、産屋が完成しないうちに、ウガヤフキアエズノ命が生まれてしまった。石體神社はお産の軽かった豊玉姫にあやかった安産の神様として信仰を集めている。

笑隈城跡

別名、隈ノ城・咲隈城とも呼ばれた。南北朝期の貞治二年(1363)頃、第六代島津氏久が三年間市陣したと言われる。天降川の対岸にある姫木城に立て籠もる税所一族・重久氏と対峙した。姫木城内では馬を洗う様子を見せ水が豊富にあることを自慢したとされる。その後の戦いで重久氏は滅ぼされた。

侏儒どん像

江戸時代初期に、日当山で地頭を務めていたとされる徳田大兵衛は身長3尺程度ながらトンチの利いた面白い人物で、皆から日当山侏儒どんと呼ばれた。その機転で、上役人を諫めたり、欲の張った商人を懲らしめたりする話が多く残っている。

日当山温泉南洲逸話

■バアさんと混浴

ある時西郷どんが温泉に浸かっていると、近所の某バアさんが同時に入浴して来た。その時西郷どんは坊主頭だったらしい。明治の初年ごろはまだチョンマゲを結っている時代で、西郷どんの坊主頭がバアさんにはめずらしく目に映った。坊さんに間違いなかろうと認めたバアさんは無理やり話しかけて「寺を持っていらっしゃいますか」と尋ねた。答えに困った西郷どんは「桜島を持っているが…」とニッコリ愛嬌たっぷりに答えたという。

明治政府の参議兼近衛都督であった西郷隆盛は、明治6（1873）年に起きた征韓論を発端に大久保利通らと対立、職を辞して鹿児島に帰郷しました。帰郷後は、県内の温泉地や猟場をよく訪れています。とりわけ日当山には好んで滞在していました。

西郷隆盛は幕末の動乱期から明治維新期にかけて、命を懸けて明治維新の偉業を成しました。ふるさとの温泉と狩猟はその疲れを癒すものであり、西郷どんにとって日当山は楽天の地だったに違いありません。

西郷どんの宿

日本庭園

西郷どん紙芝居

霧島市日当山西郷（せご）どん村